

繊腕なんて言わせない!!

243

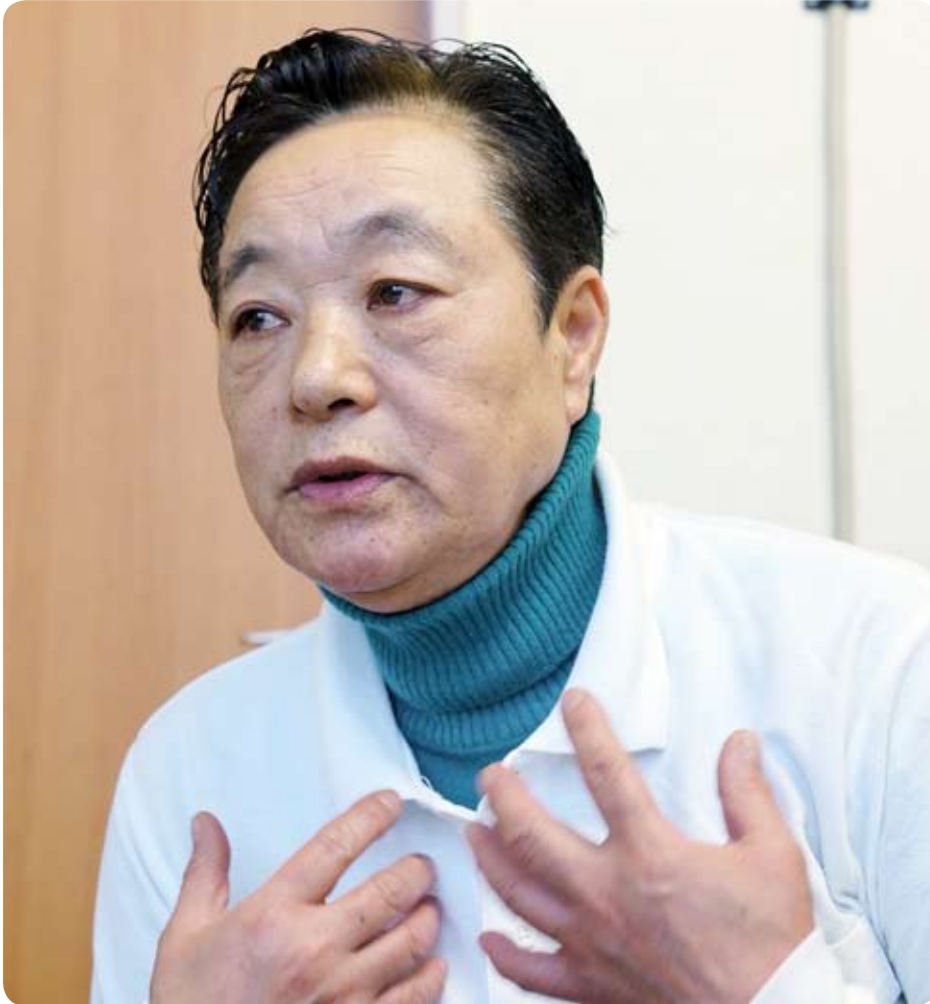
食文化大切にし、もつと米を

「料理はよく考えて作って」と語る

板橋 知子さん

■惣菜&レストラン「吉福」代表
■いわき市平字東町五ノ一

電話／〇二四六一二二一〇八八六



「この国古来、伝統ある食を大事にしないと…。そして、料理はいろいろ想像して作らなければなりませんよ」と、真摯（し）に続ける板橋さん

パワフルな女性は多い。俗に言われる「男勝り」というタイプではなく、確固とした信念を持ち、自らの進む道で汗を流している女性のこと。

「働くということは、イコールお金だけではありません。社会のために働いて何かを提供したい、役に立ちたい、ということが第一だと思っています。それに、私は働くのが好きなんですよ」

こう大きな笑顔で語りつつ、「健康な体は食にあり!」を強調する板橋知子さん（六八）。

おふくろの味の惣菜（そうざい）と、レストランを組み合わせた板橋さんのオリジナル店は、「安心と手づくり」がメーン。市内の幼稚園、JA、学校、病院などへの配送も行っている。

「食の道」に入ったきっかけは、昔、保育所に勤務していた折、アトピー性皮膚炎の幼児を預かり、面倒を見たことだった。

いわきの高校を卒業後、上京して食品会社に勤務。徹さん（七〇）と結婚後、夫の転勤で千葉県柏市へ。そこで自ら

幼稚園を開設して三、四歳児の保育を行っていたが、夫の勤めが小名浜へ。ついで、地元の保育園に勤めたところ、預かった幼児がひどいアトピーだった。

「現代の環境なども含め、アトピーの要因はいろいろでしょうが、食の大切さ、大事さを知りました」と振り返る板橋さんは、五十五歳まで勤めた後、一念発起、食の道を目指す。

震災直後は長野から

「市内のレストランに無給で雇ってもらって料理を覚えたり、あちこち食べ歩いたりして勉強してきました。一年後、妹二人の手を借り、平の愛谷町に平成十三年、十坪（三十三平方メートル）の店を開いたんです」

厳選食材の惣菜店は、次第に評判を集め、同二十二年五月には現在地に移転し、戸外でも飲食できる店を新設。店内はレストランと、三十五、六種類の古来、または伝統のさまざまな惣菜類が並ぶコーナーがあり、客は思いおもいの種類を自由に選ぶことが出来る。昨年（二〇二〇年）の二月から一時、バイキング方式で取り放題としていたところ、品薄状態というハプニングがひん発、「今は、一品に付き三百五十グラムに限定しました」と、苦笑いの板橋さん。三年前の東日本大震災直後は、新鮮な野菜を確保するため、長野県の安曇野まで出かけ、仕入れ



先を探してきたほど。固定客、常連も増えつつある店の朝は早い。板橋さんは、毎朝四時半～五時には店に入って材料、料理の油、用具などをチェックして下ごしらえ。店は、本人を含め八人で運営し、夜の七時まで開店。ランチは七百五十円、弁当は五百円。

「食べ物には、生きる基礎です。お腹（なか）を満たせばいいというだけではいけませんよ」と、再三、体に対する食の大切さを強調する板橋さんは、「最近ほとんどの食が乱れています。今に伝わる日本の食はいいものばかり。主婦は冷蔵庫の中の材料を工夫、考えて食づくりをしてほしい。そして、もっともつとお米を大事にしなければ。洋風になり過ぎですよ」と、変わり続ける現代の食文化を叱咤（しつた）した。



「今は、洋風になりすぎかな」

厳選食材で35種の惣菜などを提供中

プロフィール

いたばし・ともこ

1945年10月11日生まれ、平出身。「ここの惣菜は胸やけがしない、なんて言われるとうれしいですよ」。働くことは「自己向上、社会貢献」。髪はリゼントのため、「だんなさん」と呼ばれることも。店名は、熊本県・人吉出身の夫の地名と、福島から一字ずつ。フラガール甲子園の裏方にも尽力。子どもは男3人。得意な料理は「和・洋・中」。O型

一 特別内覧会及び講話 一

会期 / 平成26年1月15日(水) 10:00~17:00
 会場 / 向志満(草木台3-5-14)
 講話 / 14:30~15:30

赤絵金欄手環瑠文 宝尽クン 菓子鉢 径20×高10cm

新春特別企画

米久和彦 作陶展

■会期 / 平成26年1月16日(木)~28日(火)
 午前10時~午後6時(最終日は午後5時開場)

約三百年前、加賀百万石の華麗な文化が生んだ色絵磁器「九谷焼」。赤一色で文様や人物を細かく描く、赤絵細描は、線や濃淡の均一さに加え、細かい筆致と根気が要求される技法です。昭和四十三年、石川県に生まれ、金沢美術工芸大学卒業後、同県立九谷焼技術専門研修所を経て平成八年に独立した米久和彦さんは、同技法の系譜を受け継ぐ、数少ない若手作家として注目を集めています。

繊細で精華な作品を、是非ご高覧ください。

緑彩赤絵金欄手牡丹唐草文 香花三元図 香炉 径13×高13cm

小野美術 有限公司

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F
 ☎0246-35-0383
 HP: <http://onobjutsu.jp> e-mail: onobjutsu@sirius.ocn.ne.jp